

# 高等学校「家庭科」における学習意欲の向上を目指した 学習者参加型授業の研究

赤塚 美鈴<sup>\*1</sup>・下村 勉<sup>\*2</sup>

〔要約〕筆者は、高等学校家庭科の授業において ICT (Information and Communication Technology) を積極的に活用し、生徒によるプレゼンテーションを重視した授業に取り組んでいる。プレゼンテーションは、学習者が授業に参加するという授業形態を容易にし、これまでの家庭科の授業を変えることとなった。学習者が授業に参加することは、一方的になりがちな教育活動が双方向性のものとなり、学習者自らが授業内容を積極的に受けとめることができるという結果が得られた。本稿では、学習者参加型授業の試みとして、自由度をもった課題、意見交流、プレゼンテーションの流れからの授業実践について述べ、学習意欲の向上への成果を考察した。

キーワード：学習者参加型、プレゼンテーション授業、意見交流学習、学習意欲

## 1. はじめに

高等学校の教科「家庭」は、平成6年度から年次進行で4単位の必修科目として位置づけられた。本校では、科目「家庭一般」4単位を必修科目として導入し定着していた。しかし、平成11年3月告示の学習指導要領の改訂によって、新たに家庭科の科目は、2単位の「家庭基礎」と4単位の「家庭総合」及び「生活技術」となり、平成15年度から「家庭基礎」2単位の必修科目へと変更し、現在に至っている。

「家庭基礎」の目標は、学習指導要領によると「人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の充実に向上を図る能力と実践的な態度を育てる。」とされている。以前の「家庭一般」4単位での学習とは異なり内容的には基礎的、基本的なところにとどめるとされており、これにより発展的な内容にまで十分に進展できず、中途半端な内容で終わることが懸念される。

本校は県内有数の進学校でもあり、生徒の学習意欲は比較的高いと思われる。しかし、家庭科の授業は、受験科目ではないことから軽視されがちであり、1つのことを深く掘りさげるという学習までは至らないこともあり、その点が大きな問題であると考えている。

本研究は、以上の問題意識のもとで進学校の生徒の学習意欲を持続・向上させるために、生徒によるプレゼンテーションを軸とした学習者参加型授業に取り組んだ<sup>\*1)~\*3)</sup>。また、その授業実践において、ICT (Information and Communication Technology) を積極的に活用した。ここでの ICT 活用とは、プレゼンテーションに際して書画カメラや 프로젝터를用いるほかに、Web 教材の

作成・蓄積とその活用を指している。Web 教材は、授業に関する必要なコンテンツを活用したい時に提示できるようにコンテンツとして作成したものである。生徒がプレゼンテーション資料を作成する時や調理・被服実習の説明に活用する。通常の授業に ICT を導入しその活用を図ることは、生徒にこれまで以上の新鮮さと臨場感が与えられる。

## 2. 家庭科授業の学習意欲に関する調査

### 2-1. 生徒の授業に対する興味関心度調査

授業を始める前に、家庭科の授業に対する興味関心度を確認する目的で調査を実施した。その調査項目及び結果は次の通りである（対象生徒：1学年全員 10 クラス 396 名、2005 年 4 月実施）。

- (1) 家庭科の授業に興味関心がありますか（図 1）。
- (2) 家庭科の授業のうちどの分野に関心がありますか（図 2）。

家庭科に対する興味関心度は、「大変興味がある」、「興味がある」、「やや興味がある」を合わせると約 82% の生徒が関心を持っていた。

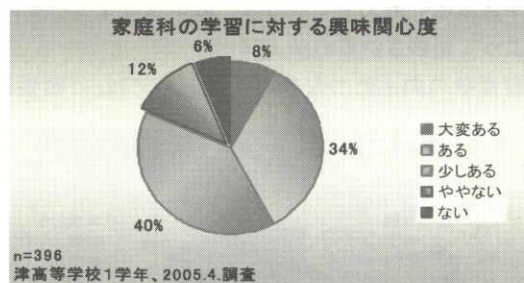


図 1 家庭科への興味関心度

\*1 三重県立津高等学校

\*2 教育学部附属教育実践総合センター



さらに、「興味がある」と答えた 323 名がどの分野に興味があるかを調査したところ、「調理」が圧倒的に多かった。本校は進学校であることから、従来型の一斉授業になると知識や技術等の興味関心は高いが、その内容に関して深く掘りさげて調べる発展的な学習にはつながらないことが懸念される。このような点から、教科「家庭」に対しての興味関心を低下させないために、知識や技術等の習得に向け、学習者が主体的に参加する授業を展開することが重要である。

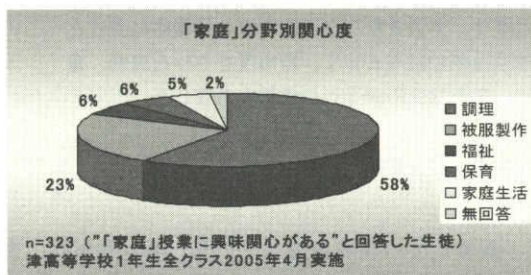


図2 「家庭」分野別関心度

## 2-2. 学習意欲の向上に関する調査

学習意欲の向上につながる言葉と、それらの言葉の発信者について調査した。その調査項目及び結果は次の通りである（対象生徒：1学年全員 10クラス 396名、2005年4月実施）。

- (1) 学習意欲の向上につながる言葉はどのような言葉か（表1）。

表1 学習意欲を向上させる言葉

頑張れ・一緒に頑張ろう	39%
やればできる	8%
ほめられる言葉	6%
やってみよう	3%
好きなようにすればいい	3%
努力	2%
ずっと応援している	1%
自分なりにマイペースで	1%
何とかなる	1%
その他	16%
空欄	20%

n=396

- (2) 学習意欲の向上する言葉は、誰から発せられる言葉によって影響されるのか（図3）。

学習意欲の向上につながる言葉としては、「頑張れ・

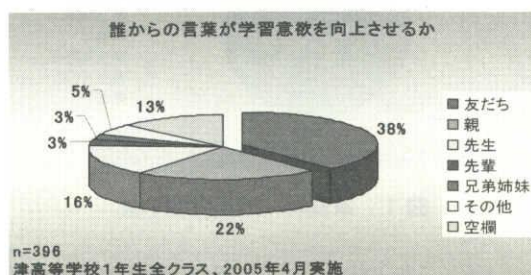


図3 学習意欲の向上に影響する言葉の発信者

一緒に頑張ろう」が39%と最も多く、次に「ほめる言葉」が多かった。また、誰から発せられる言葉によるものかについては「友だち」が38%と最も多く次に「親」の順となった。

これらの結果を今後の指導等に生かしていく授業展開として、次のように考えた。

## 3. 学習者参加型授業を進めるために

家庭基礎の一年間の学習の流れは、家庭経営分野から被服分野、食物分野、保育の分野へと移行する。家庭科の授業内容は多岐にわたり、限られた2単位の授業は極めて慌ただしい中で進めるため、生徒は受け身の授業となる。

本研究ではこのようなことから生徒自らが学習に参加し、主体的に学ぶことで学習意欲をさらに向上させることを目的に、家庭経営、食物、被服の3分野で学習者参加型授業を導入することとした。さらに、学習者参加型授業のキーワードとして次の3点を設定し、これらを含んだ授業を進めることとした。

- 自由度をもった課題・・・課題は生徒の発想を自由に引き出せる内容のものとする。
- 意見交流・・・作品に対する会話コミュニケーションによる相互交流を行うものとする。
- プレゼンテーション・・・授業のまとめとして生徒によるプレゼンテーションを実施する。

## 4. 学習者参加型授業の展開

「家庭基礎」における学習者参加型授業として、家庭経営、被服分野から次のような内容で授業を実施した。

### 4-1. 新聞を使用したプレゼンテーション

家庭科の全ての分野を広く深く学習する1つの手段として、新聞記事を活用した授業である。平成12年度、前任校（三重県立津工業高等学校）で、新聞記事を活用してプレゼンテーションを取り入れる授業を実施した。前任校では、「模造紙によるプレゼンテーション」で、利便性に欠けるなどいくつかの課題を残した。

現任校ではその課題を改善するために書画カメラを活用し、それによってプレゼンテーションを行う授業実践を試みた。平成17年、18年度1学年で実施し、その具体的な授業の展開は次のとおりである。

#### 展開 1) 課題の提示

新聞を読んで、家族・家庭に関する記事に着目し、興味のある内容を切り抜いて、その記事から感想、考えたことをまとめる。課題への取り組み期間は、5月の連休をはさんで約10日間とし、各自二つの記事を探り上げ



ることとした。

#### 展開 2) 課題提出～班編制

授業担当者は、生徒の提出物を系統別に分け、班をつくる。具体的な人数構成は、1 班に 4 名とし、1 クラス 10 班の構成とする。

#### 展開 3) 意見交流

生徒は班別になり、自分や友だちがまとめた記事をもとに意見交流を行う。

#### 展開 4) スライド作成

班ごとにテーマを一つに絞り、プレゼンテーションに使用するスライドを作成する。スライドは、各自 1 枚を分担して A4 の紙にまとめる。

#### 展開 5) 書画カメラを使用したプレゼンテーション

所要時間は 1 時限 (65 分) とし、プレゼンテーションを実施する。

#### 4-2. 被服実習作品を使用したプレゼンテーション

被服実習では、具体的な課題として「リフォームによるかばんの製作」を取り上げている。作品の完成後、生徒は 4 人 1 組のグループを作り、そのグループ間で作品の相互評価に取り組む(写真 1)。この場合の相互評価は、2005 年度実施したアンケート調査から学習意欲の向上につながる言葉とその発信者について「ほめる言葉」と「友だち」が最も有効であったことに着目している。友だち同士それぞれの作品をお互いに評価しあい、良かったところをコメント用紙に書いてお互いに交換する(写真 2)。コメントの内容は、作品の良さをできるだけ詳しく書くように促している。さらに、被服実習作品を使用したプレゼンテーションへと発展させており、友だちからのコメントは、プレゼンテーションをする際の作品紹介の一つとして役立たせている(写真 3)。

この時の意見交流学習での生徒の心境についてアンケートを実施したところ、図 4 のような結果が得られた(対象生徒：1 学年 5 クラス 192 名、2005 年 10 月実施)。

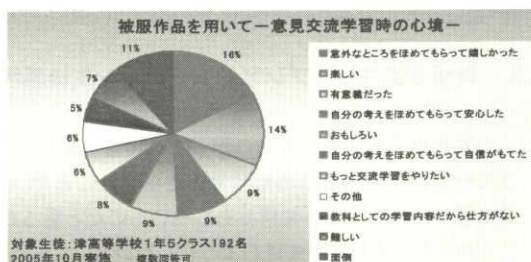


図 4 被服作品を用いた交流学習時の心境

内容として、「意外なところをほめてもらって嬉しかった」、「楽しい」、「有意義だった」、「ほめてもらって安心した」、「おもしろい」、「自信がもてた」、「もっと交流学習がしたい」など肯定的な内容が 71% を占め、「教科としての内容だから仕方がない」、「難しい」、「面倒」など

いった否定的な内容が 23%、その他 6% という結果となった。

### 5. 学習者参加型「プレゼンテーション授業」を終えて

#### 5-1. プレゼンテーションを実施する環境

プレゼンテーション授業は、教室にスクリーン、プロジェクタ、パソコン、書画カメラ等の機器を用いる。これらの機器は、普通教室で使用する場合、設置するためにある程度の時間が必要となる。これまで家庭科の授業は実習以外の場合、各ホームルーム教室を使用していた。授業の合間 10 分でこれらの機器を移動させて設置する場合、その時間や労力面にはかなり無理が生じていた。

以上の経緯から研究を進めるにあたって、授業をホームルーム教室から家庭科の特別教室へ場所を移した。



図 5 家庭経営室

平成 17 年度は被服室を使用し、マグネットスクリーンを設置したものでスライドを投影させていたが、被服室のような広い場所では後座席の生徒が見にくいという感想もあり、見やすさの点から問題が残った。

平成 18 年度は被服室から家庭経営室に場所を移し、さらに大型スクリーンを設置し、改善を試みた。このことで、生徒の見やすい環境を整えることができた(図 5)。

以上のような環境で取り組んだ平成 18 年度の書画カメラによるプレゼンテーションについて、次の 2 つの項目でアンケート調査を実施した(対象生徒：1 学年 3 クラス 117 名、2006 年 5 月実施)。

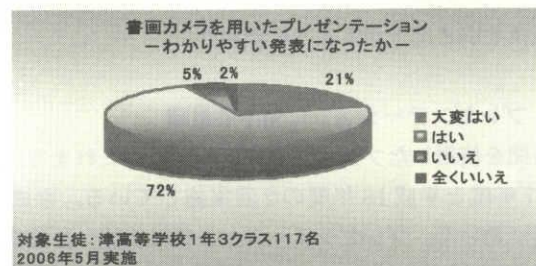


図 6 書画カメラによる発表のわかりやすさ

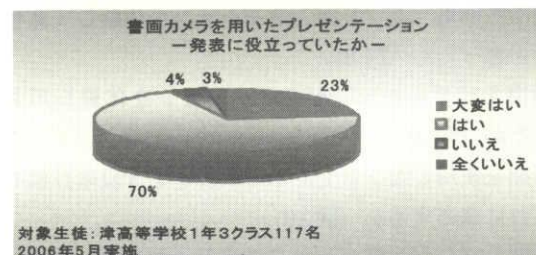


図 7 書画カメラの役立ち感



①書画カメラを用いることで、わかりやすいプレゼンテーションになったか（図6）。

②書画カメラは、発表に役立ったか（図7）。

以上、2つのアンケート調査結果から、書画カメラは発表する側、聞く側、いずれの場合も発表に役立っているといえる。これらの結果を踏まえ、書画カメラを中心にした、プロジェクタ、パソコン等のICT活用は、利便性が高く、生徒の発表への意欲を向上させることに大きく寄与したと思われる。

## 5-2. プレゼンテーション実施にあたり配慮した点

### (1) 新聞によるプレゼンテーション

入学して間もない5月の実施であるためクラス内の友だちとのコミュニケーションも少なく、距離感が懸念された。そのためプレゼンテーションへの抵抗感も強いであろうと推測し、次の3点に配慮した。

- ・班別によるプレゼンテーションを実施することでクラスの仲間とのコミュニケーションの機会を与える。
- ・仲間意識を育て、グループによるプレゼンテーションを行うことで発表におけるプレッシャーを軽減させる。
- ・意見交流によって、お互いに助け合うプレゼンテーションにする。

以上のような配慮を踏まえながら、グループごとにプレゼンテーションを実施した。

### (2) 被服実習作品によるプレゼンテーション

プレゼンテーションの方法は、自分の作品を自分自身で行うものである。そのため、どれだけの内容を言葉の中に盛り込むことができるかが懸念される。意見交流学習によって友だちからのほめる言葉は、その言葉を膨らませることに活用している。ほめる言葉が自分への自信に代わり、具体性が加わり、プレゼンテーションで作品の長所を引き出させるように配慮した。

## 5-3. プレゼンテーションに対する意識

新聞を使用したプレゼンテーションは、これまでに平成17年度と平成18年度の2回実施している。平成18年度において、プレゼンテーション後に実施した調査項目及び結果は次の通りである（対象生徒：1学年5クラス196名、2006年5月実施）。

①新聞を使用したプレゼンテーションを体験して意味があると思ったか（図8）。

②新聞を使用したプレゼンテーションを体験して楽しかったか（図9）。

③新聞を使用したプレゼンテーションを5段階評価するとどれに該当するか（図10）。

新聞とプレゼンテーションの組み合わせは、予想以上に生徒にとって意味のあるものとなった。しかし、楽し

さの点においては、約半数の生徒が楽しいとは思っていないという結果となった。

また、生徒からみた本授業の評価は、5段階評価で「よかった」が最も多くなった。「大変よかった」と「よかった」を合わせると75%となり、総じて高い評価を得た授業となった。

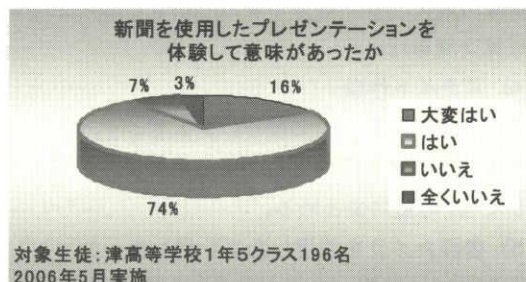


図8 プレゼンテーションの意味に対する意識

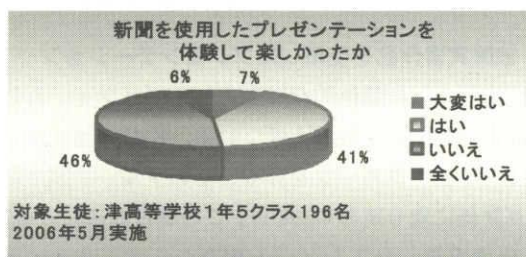


図9 プレゼンテーションの楽しさに対する意識

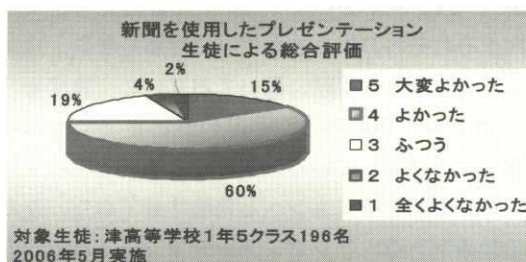


図10 生徒によるプレゼンテーションの総合評価

授業についての主な生徒の感想は、以下のとおりである（新聞を使用したプレゼンテーション：自由記述による生徒感想文、2005年5月実施、表2）。

表2 新聞を使用したプレゼンテーション生徒感想文

- ・いつもあまり新聞を読まないが、この授業を通して、1つの新聞についてまとめたり考えたりしたことで、新聞は思っていたよりも結構おもしろいものだった。これからもう少し新聞を読むようにしたい。
- ・普段新聞を見たりすることがほとんどないので、この学習で新聞を見たりできて、こんなことも書いてあるのだと、改めて知ることができた。だから今回の新聞を活用した学習はよかったと思う。それに、他のグループの発表からいろいろなことを知ることができたことがまたよかったと思う。新聞もいろんなおもしろいことが書いてあるんだなと思い、普段からできるだけ目



を通そうと思えるようになった。

- ・今まであまり新聞を見なかったが、ゴールデンウィーク中は毎日のように新聞を開いていた。新聞からはたくさんのことが学べるので、新聞を活用した学習はよかったと思う。グループでの活動だったので楽しくまとめることができた。
- ・普段あまり新聞とか読んでなかったから、こんなことが書いてあるんだとか新しい発見をすることができたと思う。特にグループ学習ということで、同じテーマでも目のつけるところが違うし、いろいろな人の考えなどがよくわかったと思う。それをつなげて発表するのは難しいことだったけど、その記事その記事の重要なところを集めたらすごく内容の濃い発表になってよかったと思う。
- ・普段からあまり新聞を読まないの、この学習を通して、今社会で起こっていることについて自分の興味のある記事について、いろいろ自分で考えられる知識もたくさん身についた。また、そのことについてもっと調べたいという気持ちも起こった。自分が調べたこと以外にも人の発表を聞くことで、興味の持った内容もたくさんあった。内容の多い新聞から要点をまとめたりするのは難しかったが、相手に分かるように伝えるためにはどうしたらいいかを考えることもできた。
- ・とてもよかった。新聞は読んでみるといろいろなことが載っていておもしろかった。他のグループの発表を聞いて、自分の知らなかったことがたくさん分かった。グループの中で何を話すかなどを考えてより理解が深まったと思う。こういうことをする機会はあまりなかったの、よかった。
- ・新聞の中からよい題材だけを見つけるために、いろいろな記事が読めるのでよかった。友だちと記事を見て、おもしろいものや新しく分かったことが見つけられてよかった。
- ・読んでみると結構いろんな記事が載っていておもしろかった。自分では目にとまらないような記事を友だちが切り取っていたりして、その人の視点と自分の視点の違いが分かるのもおもしろかった。記事の内容をまとめたり、そこから自分の考えを文章にしたりするのは国語の力にもなった。

## 6. 学習者参加型授業についての考察

### 6-1. プレゼンテーションの重視

プレゼンテーションを用いた授業は、生徒が授業の中心となり、学習への参加意識を高めた。生徒が自由な発想で意見を出し合い、他人の意見を聞きながら学習を深めていく活動は、お互いを認め、譲り合うといった観点からも本来の授業にはない成果が感じられた。またプレゼンテーションは、自分の思いを相手に伝えるためにはどのように話せばいいかといったコミュニケーション能力の向上にも役立ち、生徒に達成感を与えることができた。

一方、発表の楽しさについては、楽しいと受けとめる生徒が過半数に至らないことから、継続的にプレゼンテーションを実施し、抵抗感を少しずつ取り除いていきたいと考えている。

### 6-2. 意見交流

クラスの中での意見交流は、同じクラスでありながらほとんど話す機会がないという生徒のいる状況の中で、新鮮な感覚で授業が展開していった。5月に実施した意見交流は、友だちを作るという視点からも効果があると思われる。

意見交流学習では、授業後に実施したアンケート結果からもわかるように、「楽しい」、「おもしろい」等の結果が多いことから、「ほめること」による意見交流は学習への動機づけにつながっていく可能性があるものと考えられる。

### 6-3. 自由度を持った課題

取り組む内容に各自の自由な発想を加えることは、他の人とは違うという点から興味関心が高まり、実習に対する満足度が向上し、積極的な授業につながった。また、完成したものをスライドとして作成し活用することは、他との比較や考察を容易にし、クラス内でのコミュニケーションの向上にも有効であった。

## 7. 学習者参加型授業の Web 化

4で述べた授業は、次年度の授業へ活かすことを目的に教科「家庭」の Web ページを作成し、その中に Web 教材として蓄積している（図 11）。

教科「家庭」の Web ページは、「食物」、「被服」、「家庭経営」の3分野を柱としている。それぞれの分野には、学習内容を深めるためのものや、実習内容を具体化するためのものをコンテンツとして作成している。これらは特に、内容に生徒の取り組み状況や成果などを加えることで、内容がより明確になる。デジタルカメラやデジタルビデオによる画像ファイル、スキャナなどから取り込



図 11 本校教科「家庭」の Web ページ

んだPDFファイルは、Web教材作りに欠かせないものとなっている。

## 8. まとめと今後の課題

本研究は、これまでの教師主導の家庭科の授業を見直し、学習者参加型授業を展開することによって、従来までの授業方式を大きく転換できるものとなった。

進学校においては受験勉強の傍らで、家庭科の授業に真正面から取り組む必要性を持てなかった生徒について一つの動機づけを与えることができた。その主な成果は以下のとおりである。

- (1) 学習活動に自由度を持たせ、意見交流の場を作ること、学習者自らが主体的に授業に取り組み、活気のある授業展開となった。
- (2) グループによる学習は、お互いに協力しながら作業を進める上で、協調感や満足感を持たすことができた。
- (3) プレゼンテーションに対する生徒の意識は、意味があると答える生徒は90%にのぼるものの、実際にプレゼンテーションを行うとなると、約半数が抵抗感を持っていた。これは、他者の発表を聞くことには好意的に受けとめるが、自分が発表するにあたってはそれなりのプレッシャーを持っているからであると思われる。

今後の課題としては、次のことが挙げられる。

- (1) 「ほめること」の効果の検証。
- (2) 「ほめること」から「改善すべき点」への展開。
- (3) 「ほめること」を具体化するための「ありがとうカード」<sup>4)</sup>と称する用紙の活用。
- (4) プレゼンテーションへのプレッシャーを軽減させるための環境作り。



写真1 被服作品を用いた意見交流1



写真2 被服作品を用いた意見交流2

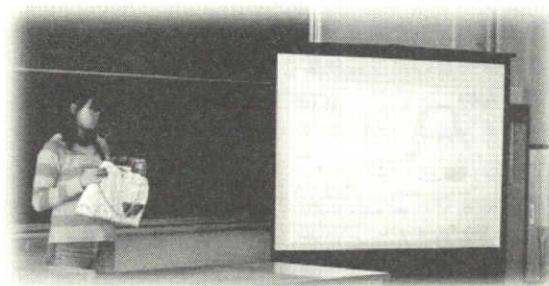


写真3 被服作品を用いたプレゼンテーション

## 付 記

本研究は、第13回(平成16年度)上月スポーツ・教育財団による研究助成を受けて行われた。

## 参考文献

- 1) 赤塚美鈴・下村勉, 高等学校家庭科の学習意欲を高めるWebページ活用授業, 第31回全日本教育工学研究協議会全国大会論文集, G-07, 2005
- 2) 赤塚美鈴・下村勉, ICTを活用した学習者参加型授業の実践, 日本科学教育学会研究会研究報告科教研報 Vol.20.No6, pp.57-60, 2006
- 3) 赤塚美鈴・下村勉, プレゼンテーションを軸とした学習者参加型授業の実践, 第32回全日本教育工学研究協議会全国大会論文集, A-04, 2006
- 4) 下村勉・織田揮準, 自主的研究会「学習支援研究会」10年間の歩みと今後の課題, 三重大学教育実践総合センター紀要第16号, pp.147, 1996